大館市総合教育会議

会　　議　　録

令和２年１０月開催

令和２年度　第１回大館市総合教育会議　会議録

１　日　　時　　令和２年１０月３０日　金曜日
　　開会　１４時５０分　　閉会　１６時５０分

２　会　　場　　市役所　本庁　第１委員会室

３　出席委員　　市長　　福　原　淳　嗣
　　教育長　　高　橋　善　之
　　委員　　山　田　和　人
　　委員　　根　田　穂美子
　　委員　　工　藤　啓　子
　　委員　　小笠原　正　卓

４　事 務 局　　教育次長　　本　多　恒　博
　　教育監　　山　本　多鶴子
　　教育総務課長　　成　田　浩　司
　　教育総務課長補佐　　鈴　木　　明
　　学校教育課長　　坂　上　隆　義
　　教育研究所長　　米　澤　貴　子
　　生涯学習課長　　一　関　留美子
　　中央公民館長　　金　谷　　浩
　　歴史文化課長　　長　崎　美　幸

５　協議事項　　（１）次年度以降の重点的に講ずべき施策について

６　会議内容

○本多教育次長

皆様、お忙しい中ご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、令和２度第１回大館市総合教育会議を開会いたします。

本日の本会議の構成員の皆様の出席状況は、全員出席となっております。

まず、会議の公開の取扱いについてお諮りいたします。

本日は、傍聴希望者はおりませんが、報道関係者の方がいらっしゃいます。

会議につきましては、非公開とすべき事項はないものと考えますので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の４第６項に基づき会議を公開とし、傍聴等を許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

それでは、本日の会議は公開とさせていただきます。

はじめに、開会に当たりまして、当会議の招集者であります福原市長がごあいさつを申し上げます。

○福原市長

令和２年度第１回大館市総合教育会議の開催にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。

今回の悪性コロナウイルスの世界的な流行、パンデミックにより私たちが気付かされたことは、「学ぶということ」、子どもたちの学ぶ機会を作っていくということの重要さを改めて認識する切っ掛けであったと思っています。私のある友人は、資金調達の面で組織に求められているものは、「ＥＳＧ投資（Environment：環境　Social：社会　Governance：統治)」であり、組織のこれからの成長を見るのは、このＥＳＧがしっかりしているかどうかであると教えてくれました。別の言い方をすると、将来の大館市の未来市民である子どもたちへの投資を私たちがちゃんと考えているのか、という議論を大館はずっとしてきたけれども、今こそさらにこの分野を深掘りする必要があると思います。私は、学校という固定資産のあり方も風穴を開けなければならないと思っています。文部科学省の補助金をいただいたから、教育以外に供してはならないという時代ではないと思います。秋田犬だけではなく、数多くの分野でお客様が大館にお越しいただく中で、教育ツーリズムという大きな柱があります。そうすると学校という固定資産が、持つ意味合いもこのコロナパニックの中で変わってくると思います。そうしてきた場合に、従前の文部科学省の補助金で学校をというだけではなく、まさにまちづくりの一環として、外に開かれた学びを男女や年齢などに関係なく広く展開していく大館には、固定資産の持ち方すらこの教育分野からの新しい改革、イノベーションを起こしていければと考えています。

今日は皆様からの忌憚のないご意見を賜りますことをお願いいたしまして、開会のあいさつといたします。本日はよろしくお願いいたします。

○本多教育次長

ありがとうございました。これより本会議の進行は、大館市総合教育会議運営要項の規定により福原市長にお願いいたします。

○福原市長

次第に従いまして高橋教育長のあいさつをよろしくお願いいたします。

○高橋教育長

市長におかれましては、お忙しい中ご出席賜りましてありがとうございます。

今年度、コロナ禍において大館は全国の中でダメージが一番少ない状況でありますが、コロナ禍に伴って１人１台タブレットの導入、小中学校の教室のエアコンの設置など、

市長には特段の配慮のもと、速やかに予算措置を講じていただきまして感謝申し上げます。

今年度このような状況でありますが、市長が常々おっしゃっているように、アフターコロナを見据えて未来戦略の布石を打つ年であると、そのような戦略に基づいて教育委員会も大館の教育の未来構想とか、各種施策の展開、そして計画などを進めています。

本総合教育会議が教育委員を含め、市長の方針や考えを直接聴くことができる貴重な機会でありますので、どうかよろしくお願いします。

○福原市長

ありがとうございました。

次第の４の協議事項に入りますが、協議に入ります前に事務局から発言を求められておりますので、発言を許可します。本多教育次長、どうぞ。

○本多教育次長

議事進行は議長である市長が行うこととなっておりますが、市長にも教育長、教育委員と十分に協議をしていただきたいと思っておりますので、今回も事務局の方で進行をさせていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

（異議なし）

○福原市長

異議なしとのことでございますので、進行は事務局にお願いいたします。

○本多教育次長

それでは、「次年度以降の重点的に講ずべき施策について」、順次ご説明を申し上げます。

なお、テーマは１件ごとに協議をしていただきながら進めて参りたいと考えておりますので、自由なご意見等をお願いいたします。

はじめに、高橋教育長から「大館教育の充実と『教育のイーハトーブ連邦』構想」について説明をお願いします。

（「大館教育の充実と『教育のイーハトーブ連邦』構想」について、高橋教育長が説明）

○本多教育次長

ただいまのテーマについて、協議をお願いしたいと思います。ご発言のある方は挙手をお願いします。

○山田委員

「教育のイーハトーブ連邦」構想について、構想があるということは、現実がしっかり、また、地に足の着いた計画があるから構想がある。それが毎年毎年少しずつステップアップしていることが、大館に来てもらっている方々の魅力になっている。実際こうした形で学力もしっかり着実に伸びてきていることは、全国から見ると羨ましいと思われている。社会的貢献活動もしながら学力も伸びていく、経験と学習とその社会が表裏一体であるということをやっと理解し始めた。教育は、学校だけではないということをやっと理解し始めた。日本の社会が大館を見て、生活があってやっと学習が成り立つということを理解し始めた。私はそのような気がしています。大館にはまだまだ優れた会社があり、そういうところに人材を配置してもらえれば新しいサービス、新しい製品が大館から発出していける。そういうところまで発想できれば、本来あるべきふるさとキャリアの種が花咲く時期がそこにあると思います。

○工藤委員

ふるさとキャリア教育の１０年間の取り組みということで、各学校で子どもたちは、地域の人たちと関わり合いながら地域の良さを知り、地域のために何か役に立ちたい、貢献したいという素直な想いを持った子どもたちが育ってきていると感じています。これは、この１０年間の取り組みの大きな成果であると思っています。

今年はコロナがあったので、本当にこれから大事なことはよく言われていることだが、社会の変化に対応していく力だとか、問題を解決していく力がポイントになってくる。新しい学習指導要領で求められているものは、プログラミング、外国語、ＩＣＴなどであり、また、そういうふうに対応していく力を付けるためのスキルやツールだと思います。先生方の対応は本当に大変になってきるので、その辺は行政として何かサポートしてほしい。具体的には、外部人材の活用など、小学校においては小学校の専科制ができればいいと思います。このようなことによって、先生たちが学びの中身にもう少し時間を掛けることができると考えます。よく言われる「子どもたち一人たりとも置き去りにしない」というのがあるが、先生たちも一人たりとも置き去りにしないということを考えていかなければならない。

もう一つは、社会の変化に対応していく力ということで、リカレント教育があるが、ここの大学を卒業したからいいということは通用しないと思います。若い世代が学び直しだとか学びを継続していくことは、本当に大事なことである。特に大事なことは、退職後の人たちを対象とするのではなくて、３０代、４０代が学び直しをできる機会があることは、本当にすばらしいことである。今回の大館版リカレント教育に大いに期待しています。

○小笠原委員

先ほど山田委員、工藤委員が言っていたように地域のことを自然に愛して考える子どもたちが育ってきていると感じている。これは、学校の先生方の力のおかげでそういう

子どもたちが育ってきているが、ぜひ、市のトップである福原市長に大館市の将来について話してほしい。授業とか全校集会などで、市長が大館はこれからこのようになる、皆さんの役目はこういうことなんだと話をしてくれることは、彼らにとってすごい刺激となり、もしかしたらそこで何かのスイッチが入るかもしれない。以前、長木小学校の１４０周年の記念式典に来てもらったときの話の中で印象に残っていることは、「やる気スイッチ」です。そこを福原市長に押してもらえるような時間をいただければありがたい。ふるさとキャリア教育を１０年重ねてきて、非常に優秀な人材になり得るダイヤモンドの原石がたくさん育ってきたと思います。ただ、そこで工藤委員が先ほどおっしゃった壁の一つに経済的なものがある。それに加えてコロナ禍がぶつかってしまって、私の同世代の友人の話を聞くと、やっと大学に入れたけれども授業がないのに授業料が４年間もしくは６年間掛かってしまう。授業を受けることができなのに授業料は減額されない、大学に行けないのに家賃が掛かってしまう。そういう話を聴く中で、行政が何を助けてあげることができるかというと、直接的になってしまうが奨学金が大きなキーになる。奨学生に応募した人の審査員を数年やっているが、応募する家庭、子どもたちが少ないと感じている。実際にいろいろな方に聴いてみると奨学金の月額貸与の金額が少ないのと、貸与型ではなく給付型にした方がいいと思います。当医療法人でも完全に給付型の奨学金制度を設けて、未来に医療を志す子どもたちにサポートをしています。そういう支えがあることで、そこだけがハードルだった子どもがそのハードルを乗り越えて学んでいく、それで大館市が助けてくれたということが彼らにとって将来の選択肢を広げて、大館で活躍してくれる大人になると思います。財政的な面でいろいろとクリアしていかなければならない問題がたくさんあるが、助けていただければありがたい。このコロナ禍の中でバイトにも行けない、働きながら学べない。大館は幸いコロナのダメージは少ないので、もう少し子どもたちの将来に向けた有益な投資ができるのではないかと感じています。

○根田委員

　このコロナ禍にもかかわらず、子どもたちが伸び伸びと生活できるのは本当に先生方、地域の皆さん、市長さんはじめ皆さん方のお力添えだと思い、私個人としてもありがたことだと思います。子どもたちのこの１０年間の成長の姿は、最初の頃、私が想像していたものとは比べ物にならない大きな成長を遂げていると思います。今の子どもたちはどこに出しても恥ずかしくない、もう私たち大人を超えるような礼儀正しさ、考え方、しっかりした発信の仕方など、これには本当に驚かされます。教育大綱にもある「ふるさとに学び、未来を創造できる「人財」の育成」を見るたびに大人として責任を感じます。大人を見て子どもたちは学び、成長をするけれども、大人が緊張感を持って子どもたちを育んでいかなければならない。そして、基本目標に「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」、「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」があり、大人の私たちの責任が非常に重大なものとなっている。子どもたちが未来に向かって、それぞれの時代背景によると思うが、今後グローバル化がさらに進むと思

います。そのグローバル化に対応できるような子どもたちを育てなければいけない、というプレッシャーを私たちみんなが感じるところですが、そのグローバル化に対してただ単に教育ということよりもその内面性、それこそいろいろなことに耐える力とか、想像力を逞しくする力とか、コミュニケーション能力とか、そういうものが常日頃から言われてきている。そして、改めてグローバルな子どもたちを育まなければいけない今の時代になったので、１０年前はそれほどあまり考えなかったし、子どもたちに対しても期待というものよりも、子どもたちが成長する上で私たちに何ができるか、ということが最初に立っていたと思います。また、子どもたちが私たち以上に成長した姿で飛び立って行く、その飛び立った後でまた大館市を振り返ったときに、その大館市に対する感謝の念がなおさら強くなると思います。外に出て初めてふるさとを想う力が出てきて、ふるさとに対する愛着、ふるさとに対する懐かしさ、ありがたさを感じる子どもたちに成長していると思います。大館市としては、子どもたちのその成長が楽しみですが、それを束縛することもできません。また、成長して羽ばたいて行く子どもたちを戻って来るように言うこともできません。やはり、子どもたちの自由を束縛できませんが、大館市を想う子どもたちがたくさんいて、大学を卒業して就職を考える子どもたちもいます。その子どもたちの今後が非常に楽しみだという気持ちもあります。私にはできるものではありませんが、今少しでも見守って、もし子どもたちが傷ついたり、悩みがあったりしたならば、帰って来た時に穏やかにリフレッシュできる場であるようなふるさとであってほしい。子どもたちがグローバルに活躍できるよう、私たちは応援、支援していきたいと思うし、もちろん帰って来て大館のために働き、過ごしてもらいたいと思います。

秋田公立美術大学の「あきびネット奨学金」の審査員を４、５年やっていますが、先月その審査委員会があって、その奨学金に８組の申込に対して６組合格しました。その学生のプレゼンは素晴らしく、秋田美大も県内だけではなく、むしろ県外の人が多く、今回はコロナ禍により家庭的な事情で資金繰りが難しい子どもたちに、その奨学金が有意義に使われることになりました。金額は１人に２０万円ずつ支給するもので、その学生たちにとってつらいことは、その制作活動が断ち切られることなので、製作活動を支援する奨学金の大切さを特に今回は感じました。

そして、奨学金の額を子どもたちがゆとりを持てるように引き上げてほしい。また、先ほど一人滞っている人がいると伺って、どういう理由で滞ったのか、やはり経済的理由、仕事の面など、いろいろなことがあると思うが、大館市でその子どもたちを救うため、一時的にでも奨学金を出して、それが返せなかったら返せなかったときのことも考えてあげなければならない。このコロナ禍がいつまで続くかわからないけれども、大館の子どもたちを見る限りでは、今は全く不安を感じない。先生方の力、地域皆さん方の力がどれだけ子どもたちを支えているということを、コロナ禍の中で切に感じています。

○福原市長

私の今年の訓示で話したことは、昨年の秋にパリに本部を置く国際機関である経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）がこれから伸びていく国を発表した。その中でトップの国は、

主要先進国７か国ではなくて、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドであった。いわゆるスカンジナビア諸国、人口５００万人、９００万人、５４０万人、この３か国は社会の仕組みが非常に柔軟にできていて、１つは働こうとする人、年齢、性別を関係なく、働く機会を作りましょう。そして、もう１つは学ぼうとする気持ち、年齢、性別を関係なく、きちんと作るという仕組みができている。ＯＥＣＤがこれから伸びていく国がスカンジナビア諸国であった。そうすると、私たち秋田は、子どもたちの仕組みではもうモデルを作りつつある。もう１つの社会の柔軟性、働こうとする意欲を作れば、そこが私たちの目指すゴールではないか、という話をした。この悪性コロナウイルスのパンデミックの中で、その方向性が改めて間違いでないということを強く認識している。

２つ目の話として、ふるさとキャリア教育、１０年。１０年というのは英語で「デケイト」であるが、１０年と聞くと私は歴史まちづくり。歴史まちづくりは、国土交通省のキャッチコピーがもう一つあって「景観十年、風景百年、風土千年のまちづくり」、そうすると私たちは、ふるさとキャリア教育という景観を作った。これを風景にして風土にしていくということをきちんとしていかなければならない。そのような意味では、小笠原委員が言われた市長のビジョンはきちんとやります。

○本多教育次長

ありがとうございました。

残る４点テーマがございますけれども、進め方を各テーマについて、一括して所管課の方から簡潔に連続して説明をさせていただきます。それを踏まえまして各委員の方々から４項目について、一括してご協議をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、テーマ２点目「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」に関して、次年度以降の重点的に講ずべき施策について、成田教育総務課長が説明します。

（「信頼と安全を築く教育環境の整備充実」について、成田教育総務課長が説明）

○本多教育次長

続きまして、「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」に関して、次年度以降の重点的に講ずべき施策について、坂上学校教育課長が説明します。

（「ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化」について、坂上学校教育課長が説明）

○本多教育次長

続いて４点目、「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」について、一

関生涯学習課長が説明します。

（「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」に関して、次年度以降の重点的に講ずべき施策について、一関生涯学習課長が説明）

５点目のテーマに移らせていただきます。
「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」に関して、次年度以降の重点的に講ずべき施策について、長崎歴史文化課長が説明します。

（「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、長崎歴史文化課長が説明）

○本多教育次長
ただいま４つのテーマについて、続けて担当課の方から説明させていただきました。説明のありましたテーマについて、皆さんの方からご意見等をいただきたいと思います。

○山田委員
先ほど一関課長、わくわくしてくるという話をされたと思いますが、実は市長の話を聴いてわくわくしてきました。今後、大館はどうなるのだろうと非常につかめなかったけれども、改めてそういった話を聴いたときにそういう道筋もあり、そういうあり方もある。例えば、物づくり、人づくりもいいのですが、具体的にどのようになり、どれが伸びてどのようになるのか、インフラはあくまでも手段で、その手段を使ってまちがどうなっていくのか、夢とか絵とかが描けないと子どもたちは、わくわくしないし、大人たちも段々すぼんでいく。そういう中で先ほどの話を聴くとわくわくしてくる感じがする。みんなこれからここが中心となって、そこに人が集まるようになって、住むようになって、経済活動ができて、これがどんどん経済を回していくことになるということを聴くと、わくわくしてくる。そして今、もっとわくわくしてきたのが、大館はこんなに文化財産を持っている、こんな財宝を持っている。それを今、教育委員会が経済のみならず、文化がないところに人は住まわない、定着しない。知的にわくわくしたとか、文化的にいいと感じないと人は集わないし、住まわない。そういうことがいろいろな形で計画されてきていることがすごく嬉しい。だからここにいると少なくとも学べるし、どこかに行こうと思えば行けるし、少しわくわくできるし、わくわくとドキドキで刺激を受けることができる環境が揃っている。それがすごく大事で、教育委員会が形を作ろうとしていることに本当に感銘を受けます。特に、鳥潟会館の庭がとても素敵である。あそこで写真大会をやった方がいいと思います。撮影会とか、写真を好きな人は日本全国でたくさんいて、みんなアップしているので、例えば、フェイスブックでもツィッターでも、インスタでも何でもいいので、ぜひ、アップしてほしい。この辺であんなに素晴らしいところはめったにない。光と影が非常に入り交じって、それがすごくいい形にな

るので、ぜひそういうふうなことをしてもらいたい。今回、博物館で戸嶋先生の絵があり、今は成田先生の絵、そういうふうな芸術の分野でも大館市は財産を持っている。そういうふうなものを発信できるようなものがあるまちである。文化と経済が融合されて初めて人が住まう所になっていく素地がここにある。あとどうやってブラッシュアップしていくのか、ということを今回の計画で拝見することができた。また、エアコンの設置、ＷｉＦｉ、タブレットと英断いただき、改めて感謝を申し上げたい。

○工藤委員

大館には資源がたくさんあると思っています。鳥潟会館や博物館にも行って来ました。いいものを持っているが、もしかするとその活用の仕方、例えば情報提供であったり、発信であったり、そこら辺をブラッシュアップしていければ本当に素晴らしいし、若者たちが誇りを持って住みたいと思えるまちになっていくと思います。特に、生涯学習課の施策については、私もわくわくしている。伝統文化に触れる機会ということで、幼児から小中高校生が体験することは大事なことだと思います。幼児からの体験が本当に大事なことだと思うが、実は触れていないのは大人であるような気がする。だからこそ親子で体験するという事業はとてもいいと思います。また、小中学校でやられているようなふるさとの体験だけにとどまらず、今回もいろいろ学び直しみたいな面白い企画がある。

先日、成田先生の絵を観に博物館に行ったが、ちょうど駐車場に着いたときに後ろから県外ナンバーの車が来ていて一緒に止まっていた。そうしたら出てきた方が「ここが博物館ですか」という話をされた。どこが博物館なのか分からないということで、ただ前を走っていた車があったからついてきたと言われた。本当に私は思っていたが、立地条件が良くない。中身はとってもいいのに、本当にひっそりしたところにあるので、まちの中心に持ってくることができればいいと思います。

学区再編について、学校教育環境適正化のところで、今後いろいろな形の学区再編があるという説明ですが、具体的に見えているところでどのような形になるのか教えてほしい。

○坂上学校教育課長

細かいところまでは決めてはいないけれども、大きな括りでいくと、旧市内４校の部分、改築を含めてどうするのか、中学校の成章中、南中、下川沿中の３校は平成９年度以降、３０人以下の学級となる予定で、ここの統廃合はやらなければならない。どういう形になるのかは、今後の協議、説明会の結果しだいになると思われます。いずれ中学校については、統廃合を進めなければならないと思っています。実際の統廃合は令和１０年度以降になると思われるが、スムーズに移行できるように令和５年度から住民説明会を開催するという計画を作っていきたいと考えています。

○小笠原委員

教育環境に関しては、今年様々なありがたいご協力をいただいて、われわれの子どもたちも本当に感謝申し上げます。少ない時間の中で決めて実施してくださる行政の皆さまの素晴らしさ、市民の一人として感じました。その上で次はトイレですね。いろいろな学校の先生方とお話しさせていただく上で、具体的な話になると、小さい１、２年生がトイレに行きたくなったときに、和式のトイレだとできない。今、和式のトイレがある家庭はどれくらいいるのか、そこで先生の休み時間が１０分取られてしまうと、次の授業にも影響が出てしまう。トイレの改修も先生方の働き方改革になると思います。この次のステップとしてトイレの改修も何とかお願いしたい。

学校教育環境の適正化の中で、工藤委員からも学区の再編の話が出ましたが、学区の話しは、地域の皆さん、ＰＴＡの意見は非常に大事なもので、そこで少し対応を誤ってしまうと進む話も進まなくなってしまうようなことが起きる。実際に、市長も近くの自治体の話も耳に入っていると思うが、そこでやはり常日頃から地域住民の方々といろいろなことを意見交換するということは非常に大事である。ＰＴＡ会長をしている人たちは、その地区で町内会の役員をしていたり、若いリーダー的な存在となっている。そういう方々と定期的に市長と交流を持ってもらえるような時間を作ってもらえると大変ありがたい。いろいろなＰＴＡ会長の方々と会って話をすると、そういう時間がほしいとよく聞きます。今年度はいろいろな状況で厳しいと思いますが、来年度、新たな形で作っていただきたい。

リカレント教育について、欧米のリカレント教育（費用）はすごく高い、２時間で１，０００ドルというものがある。それが大館でこのように教育委員会が主体となって皆さんに提供しやすいような形でやることは、非常に魅力的なことだと思います。大館市民にとってもいろいろな意味で心の栄養になる。ぜひ、施策についてサポートを市長部局からもお願いしたい。

○根田委員

初めに「郷土の歴史と文化を学び、大館びとの誇りを醸成する」について、先ほどお話しを伺って、鳥潟会館は京都の方が造園を作って、例えば、兼六園、桂離宮の庭園と同じ様式の庭園です。それを鳥潟さんが京都から庭師を大館にわざわざ連れてきて作られた本当に貴重な庭園です。これは、東北の名勝の一つになっているが、ぜひ、国指定の名勝になってほしい。この地区ではなかなか見ることのできない作りの庭園で、お座敷のところから見て、池を中心に池を回って歩く、それが見える非常に素敵な庭園で、お座敷に座って庭を眺めたときにその美しさを感じることができる。これは絶対に国指定の名勝に格上げしてほしいと思っています。今は県の指定の有形文化財になっているけれども、これをさらにステップアップして、国指定の名勝になってほしい。

それから二ホンザリガニは、私も観に行きました。かわいい二ホンザリガニがどのように成長していくのか、長崎課長から説明があったように男鹿水族館の方々と連絡を取り合って、それを大事に育んで成長させていただきたい。博物館事業に関しては、地元

と密着した博物館であるように、地方であればあるほどそれは必要である。博物館というと、工藤委員も話されたように立地条件については、何年も前から繰り返し言われていることで、ですがあの時点ではあれしかなかった、それをまたどこか新たにということも難しい。建物は当時の東高校をリニューアルして博物館にしたので、たまたまそのときにはその状態にしかできなかった。今はすぐ近くにいろいろなものができたので、博物館までのアクセス、道路事情があまりよくないのと、ただ見かけも博物館らしくない博物館なので、皆さん行くとちょっとがっかりすると思う。これは私の知っている人もよく言っていることなのです。今はあれもこれもというのは大変なので、少しずつ周りも整地していけばよくできるのではないかと思います。

新しく取り組んでいるリモート・オンライン形式の講座について、具体的にはどのようなことを考えているのでしょうか。

○長崎歴史文化課長

来月は紅葉の時期に合わせて、風穴と鳥潟会館のガイドツアーをやっていきたいと考えています。６月には鳳鳴高校の科学部を講師にして、自宅にいる小学生と科学実験をやりました。

○根田委員

高校生が子どもたちに、お兄さんが弟、妹たちに優しく接して教えたりする、これは本当にいいことだと思います。ぜひ、これからも進めてほしい。

「伝統文化親子教室事業」について、高校生の書道パフォーマンス、これはよく最近、何年か前から高校生が大きな和紙に乗って大きな筆で書くというパフォーマンスをここ何年か前から見かけるようになった。これは非常に迫力もあるし、私たちが見ても楽しいので、ぜひ、進めてほしい。あとタイ王国の陸上・ボッチャチームの選手と子どもたちとの交流、生け花の体験は、タイの方々に日本の文化を知っていただく、非常にいい機会だと思います。

「ふるさとの誇りと未来を育む生涯学習の推進と支援」に関するリカレント教育について、本当に私は必要なことで、特に大館市の方々は、年齢層も結構上の方々も何かをやりたいという思いの方が多いような気がする。このリカレント教育を推進して生涯学習課の方でやってくれるというのは、いろいろな知識、いろいろなことを身に付けて、ある意味働き方改革にもつながるし、それはまた大館市にとってもいいことだと思います。その働き方改革につながるということはもちろんですが、またその人たちが外部に行ったり外部から来たり、人の流れにも影響を及ぼし、大館市にとっても活発化してくると思うので、私はこのリカレント教育に大変期待をしています。

伝統文化親子教室については、これはもう本当に長い年月、歴史を築き上げて伝統を受け継がれてきた文化、伝統です。これは、ぜひ親子教室の中で活かして、後世につなげてほしい。

小笠原委員が話されていた和式トイレについて、これは随分前から問題があったが、

今の子どもたちの家には洋式のトイレが多いと思うが、洋式はいろいろな人が座るので、うまく座れないという子どもがいるという話を聞いたことがある。そういう子どもは、和式には慣れていないけれども無理して和式で済ましてしまう、そういう潔癖症の子どももいると聞いている。やはり生活に密着した一番大事なお手洗い、これは早く洋式化を進めていただきたい。

東北都市教育長協議会定期総会及び研修会の開催を大館市でできるということは、大館市を外から見るだけでなく、中に入って現実の子どもたちをきちんと見てもらう、本当にいい機会だと思う。そして、おおだて型教育を見てもらい、大館市の名を全国に広めるいい機会だと思います。

学校のＩＣＴ環境整備について、情報通信技術を使った教育、タブレットをみんなに渡るように準備してもらい本当にありがたい。ＰＣとかそういうふうなものに、今はほとんど家庭の中で扱っている親御さんも多いけれども、まだ家庭にない方もいると思うので、直ぐに扱える子どもとなかなか扱えない子どもの差がある可能性もあると思うので、これも平等に子どもたち誰一人取り残すことすことなく、みんな扱えるようになってほしい。子どもは直ぐに覚えるけれども、それでも慣れていない子どもに対しての配慮もお願いしたい。

学区の再編の話も工藤委員からもありましたけれども、何年か前に再編の話があって、本当に事務方の行政の方々が非常に苦労して、何年も掛かってまとめられたのを拝見して、何度も会議を開いて父兄の方々に納得してもらう、本当に大変なことだと思います。

地域の方々にとって使用されない学校が残って学校がなくなるということは、とても寂しいことでもあるし空虚感も感じる、想像しただけでもそういうふうな思いもある。それに代わる何かをそこに配置するなり、廃校を利用するアイディアがあればいいけれども、これも大分難しいと思うが、そういうアイディアも皆さん考えていただきたい。それから、地元の皆さんが沈んでしまわないように、引き続き活性化を図ってほしい。

○本多教育次長

ありがとうございました。

それでは、福原市長お願いいたします。

○福原市長

今年私は函館に５回行く約束をしていて、既に３回行っている。その都度、建設部や観光交流スポーツ部が同行している。この次は、ぜひ歴史文化課に同行してほしい。なぜかというと、元町があるが、あれは工藤函館市長の思いで２０年掛けてビバリーヒルズを作りたいという思いから作っている。私たちの修学旅行のときと違って、道路の規格がすごく延びた。私が言いたいのは、「住んでよし」「訪れてよし」というまちは、山田委員が言っていた文化がないところに人は住まない、ということを函館は実践しています。それは今までだとまちづくりは建設部であったけれども、お客様がお見えになる、その人の動線で「まちづくりを考えましょう」とか「景観を考えましょう」と考えるこ

とです。そうすると今、文化の拠点としての鳥潟会館だったり、博物館をどう位置付けていくのか、という今までにない歴史文化からのリクエストを建設部の都市計画に提案する、あるいはそこにお客様をお連れする観光交流スポーツ部の観光課、移住交流課に提案する、という横串を刺す必要があって、ぜひ次は同行してほしい。

わくわくする話しの中で、田代に三菱重工業のロケットエンジンの試験場があるが、三菱重工業の小牧工場に行くと大館工業の卒業生たちが本当に一生懸命に頑張ってくれている。あの人たちが国産ロケットを作ってくれるだと思うと、すごく誇らしくなります。おかげさまで、議会の方にも視察してもらい、働いている大館出身の職員にすごく感激していました。今後も子どもたちの活躍していく場所として、活かしたいと思っています。

○本多教育次長

ほかにご意見等ございませんか。

大きい協議事項につきましては、これで終了させていただきたいと思います。それでは、議事進行を議長にお渡しいたします。

○福原市長

改めて進行させていただきます。その他で何かありませんか。

それでは、他になければ、これで議長の職を解かせていただきたいと思います。本当に円滑なご審議にご協力いただきまして、ありがとうございました。

○本多教育次長

以上をもちまして第１回大館市総合教育会議を終了させていただきます。

本日は、ありがとうございました。